

二次元構造としての男性性・女性性からみた性別規範意識の分析

平成 20 年入学  
社会学・地域福祉社会学分野  
平成 24 年 1 月

## 要約

本論文では、現代におけるジェンダー意識とその実践についての考察を行う。いわゆる「男らしさ」や「女らしさ」という性別規範を人はどのように受け止め、自己に取り入れているのか。それらを決定づける要因を明らかにすることを目的とする。その方法として、社会一般的に男性的、もしくは女性的とされているパーソナリティを集め、それらを尺度に意識調査を行っている。

ジェンダー意識について考えるために、第一章では、性別に関する2つの概念、生物学的性 (sex) と社会的性 (gender) について定義し、本研究での両者の扱いを明確にする。

続く第二章では、性役割という概念とはそもそもなにか、これまでの研究でさまざまな用いられ方をしてきた性役割がもつ多面性を整理し、検証する。心理学的見地からは、男性性と女性性を独立に考えた意識調査スケール作成を目的とした先行研究を取り上げる。また、社会学的には性役割がどのように扱われているのか、介護を題材にした2つの先行研究から考える。それらの先行研究を踏まえて、人々の自分自身の性別規範意識と、社会一般的な性別規範意識についての認識という2つの側面から、主に性別規範意識を測ることとした。

第三章では、具体的な調査方法と分析方法に触れている。先行研究や事前の聞き取り調査などを参考に、一般的に男性的、もしくは女性的とされているパーソナリティや行動様式を集め、4つのレベルに分類、男性に対する性別規範意識と女性に対する規範意識をそれぞれ独立に測定することにした。それらの意識得点に影響を与える要因としては、家庭領域、学校領域、メディア領域の3つを設定している。

第四章では、実際に分析考察を行っている。結果、性別規範意識と一概に言っても、レベルによって、また、それが男性に対するものか、女性に対するものかによって規定要因が異なることが明らかとなった。たとえば、興味関心レベルにおいては異性の友人の割合が、外見的特性のレベルにおいては運動部所属経験の有無の影響が目立った。性別に関しては、全体的に大きく影響が見られたが、情緒性・活動性レベルと対人行動レベルにおける女性への社会一般的な規範意識では、他とは違って、正の影響が見られた。この他に、補足として、実際の性格・行動特性やセクシュアリティの分析も簡単に行った上で、まとめと反省を行い、本論文を締めくくっている。

—目次—

はじめに.....	1
第一章 生物学的性と社会的性.....	2
(1) 生物学的性の定義.....	2
(2) 社会的性の定義.....	2
(3) 本研究における生物学的性と社会的性の扱い.....	3
第二章 性役割という概念の多面性.....	5
(1) 心理学的にみた性役割.....	5
(2) 社会学的にみた性役割.....	11
(3) 問題設定.....	15
第三章 性別規範意識と性的パーソナリティの内面化についての分析.....	20
(1) 質問項目.....	20
(2) プレテスト.....	24
(3) 本調査の概要.....	25
(4) 変数について.....	26
第四章 分析と考察.....	30
(1) 分析について.....	30
(2) 性別規範意識に関する分析.....	30
(3) 性格・行動特性に関する分析.....	54
(4) セクシュアリティの分析.....	59
(5) まとめと反省.....	61
おわりに.....	64
参考文献.....	65

付録 調査票・単純集計